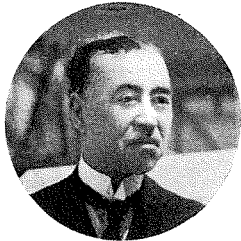


最近の銀行建築

横濱正金銀行東京支店建築概要



(1) 長野博士 (1) Dr. Nagano

工學博士 長野宇平次

日本銀行の前に三越呉服店と相併んで聳え立つた正金銀行の新建築は銀行建築としては我國最新の設計となるもので花崗石の外装工事丈けにすら約百萬圓を投じたと稱さるゝ。随つて其石材の加工及び施工には最新の機械設備を利用したものである。本號には外觀の一般を紹介し、壯觀を極むる新様式の内容は五月の竣工を待つて稿を改むる事とします。(編者)

位置 東京市日本橋區本兩替町五、六、七、八番地北鞘町七、八、九番地
敷地 九百十二坪
本館

建坪 六百二十四坪、階數地上六階、地下二階、延坪四一八五、三一坪、建物高標準地盤より百十七尺(六階陸屋根扶壁上端迄)

建築様式 希臘羅馬式

各階配置

- 第二地階 煖房汽罐室、換氣機室、唧筒室
配管室
- 第一地階 金庫室、男女更衣室二室、喫煙室、印刷室、倉庫、變電室、蓄電室、昇降機室廣間、便所
- 一階 營業室、客溜、金庫室二室、應接室九室、支配人室、玄關廣間、昇降機室廣間、便所
- 中二階 倉庫、電話交換室、昇降機室廣間
- 二階 事務室六室、電信機械室、應接室四室、昇降機室廣間二室、帳簿庫、便所
- 三階 頭取室、重役室、事務室二室、應接室六室、帳簿庫、昇降機室廣間二室、便所
- 四階 支店長室、監査役室、大廣間、重役會議室、事務室二室、應接室三室、

- 帳簿庫、昇降機室廣間二室、便所
- 五階 重役食堂、談話室、豫備食堂、配膳室、圖書室、事務室三室、應接室、帳簿庫、昇降機室廣間二室、便所
- 六階 行員食堂二室、厨房、雜品庫簿書保存室、配膳室、昇降機室廣間、便所
- 屋上 水槽室二室、昇降機機械室二室

構造

- 基礎 根切深さ三十七尺鐵筋コンクリート基礎を定置し鐵筋コンクリート擁壁を廻らす
- 防濕層 地階下層及擁壁外圍にアスファルト防濕層を設く
- 建物主體 建物の主體は鐵骨鐵筋コンクリート構造にして外壁、主要間仕切壁、柱、床、階段陸屋根床は一體の耐震架構物を形成す
- 外觀 外部に於ては根石、一階の壁石柱、胴蛇腹及び二階柱は岡山縣北木島産花崗石、軒臺輪は常陸國稻田産花崗石を用ふ、軒小壁軒蛇腹、扶壁は人造石打叩き仕上げをす
- 屋根 陸屋根上面に防水アスファルト工事を施しセメントタイル張りをす
中坪床は營業床採光の爲め採光床構造をす
中坪上部は防火の爲め鐵網を張立つ

室内造作及仕上

窓 鐵 扉 一階窓及び西側各階窓には電動装置を有する巻込鐵扉を装置す

室内仕上 内壁、間仕切及び天井は漆喰塗仕上り床は構造床上面に火山砂利、コンクリート打ち、一般にセメント塗仕上りノリウム敷込み

三、四、五階に於て事務室を除く各室は木製腰羽目を設け床は寄木張りこす、二階以上各室内幅木は木製廊下幅木は大理石、昇降機室廣間腰羽目及昇降機出入口額縁は大理石、三、四、五階廊下及昇降機室廣間床は縁を大理石中部ゴムタイル敷こす

營業室 床面積二二六坪、天井高さ三二、七尺天井の一部採光の爲め硝子張、腰羽目は伊太利産大理石を用ふ

客 溜 床面積一二六坪、營業臺長延一八八尺、床は大理石敷、腰羽目、營業臺羽目は伊太利産大理石、營業臺甲板は萬成龍王花崗石を用ふ、同上圍障格子は丹銅製にして宜徳色仕上りこす

玄 關 玄關棧、扉及び上部格子はブロンズ製、内側風除屏障は丹銅製附庇は銅板製こし共に色付仕上りこす

金庫及帳簿庫 主金庫二室、豫備金庫一室帳簿庫四室共鐵筋コンクリート構造、内部鐵板張りこし防火、防盜、耐震設備をなす、出入口、非常口扉共主金庫は米國モスラー會社、豫備金庫は同ヘリングホール會社、帳簿庫は同ヨーク會社製品を用ふ

昇 降 機 人員用電動昇降機四基米國エービーシー會社製品、文書用二基、金庫用一基共に全自動押釦式にして米國エレベーターサプライ會社製品、雜品用一基料理用二基共に半自動式にして日本エレベーター會社製品こす。

暖房装置 低壓蒸汽暖房法にして汽罐室を第二階に設け採温の方法は放熱器に依る、各直立分岐管は壁内に隠蔽す

換氣装置 風道により取入れたる空氣を第二階機械室に於て洗滌し冬期にありては之れを加熱し夏期にありては冷房装置により之れを冷却し送風管にて一階營業室内レジスターより噴氣せしむ

排氣装置 第一階及各便所壁に取付けたるレジスターより壁内に設けたる排氣管を通し屋上に於て扇風機に依り屋外に放散す

電氣装置 動力の供給を受け變壓をし屋内配線に依り電氣諸装置をなす

電 燈 天井半間接燈、ブラケット燈を設備す

電氣時計 親時計二個、子時計八十三個を設備す

電話電鈴其他 電話、電鈴、電氣信號を装置す

衛生装置 飲料として市水道より給水し掃除雜用として鑿井より屋上水槽へ電動唧筒に依り揚水し之を各階へ配給す、地下室に設くる温水ストレージタンクより循環ポンプにて各階に給湯す

防火設備 建物中四箇所に鑄鐵製水管を布設し各階毎四箇所に消火栓を附す

附 屬 家

建 坪 等 建坪八一坪階數地下室共五階、延坪三七五坪、建物高四十七尺

配 置 地下室、小使室、湯沸場、物置便所、一階廣間、自動車庫、二階巡視宿直室、事務室、便所、三階行員宿直室、事務室、便所、四階豫備室、便所、屋上昇降機機械室、階段室

構造其他 基礎、建物主體、内外仕上其他諸設備本館に準ず

設計及監督 建築士工學博士長野宇平治、現場監督主任福島克己、松澤一松

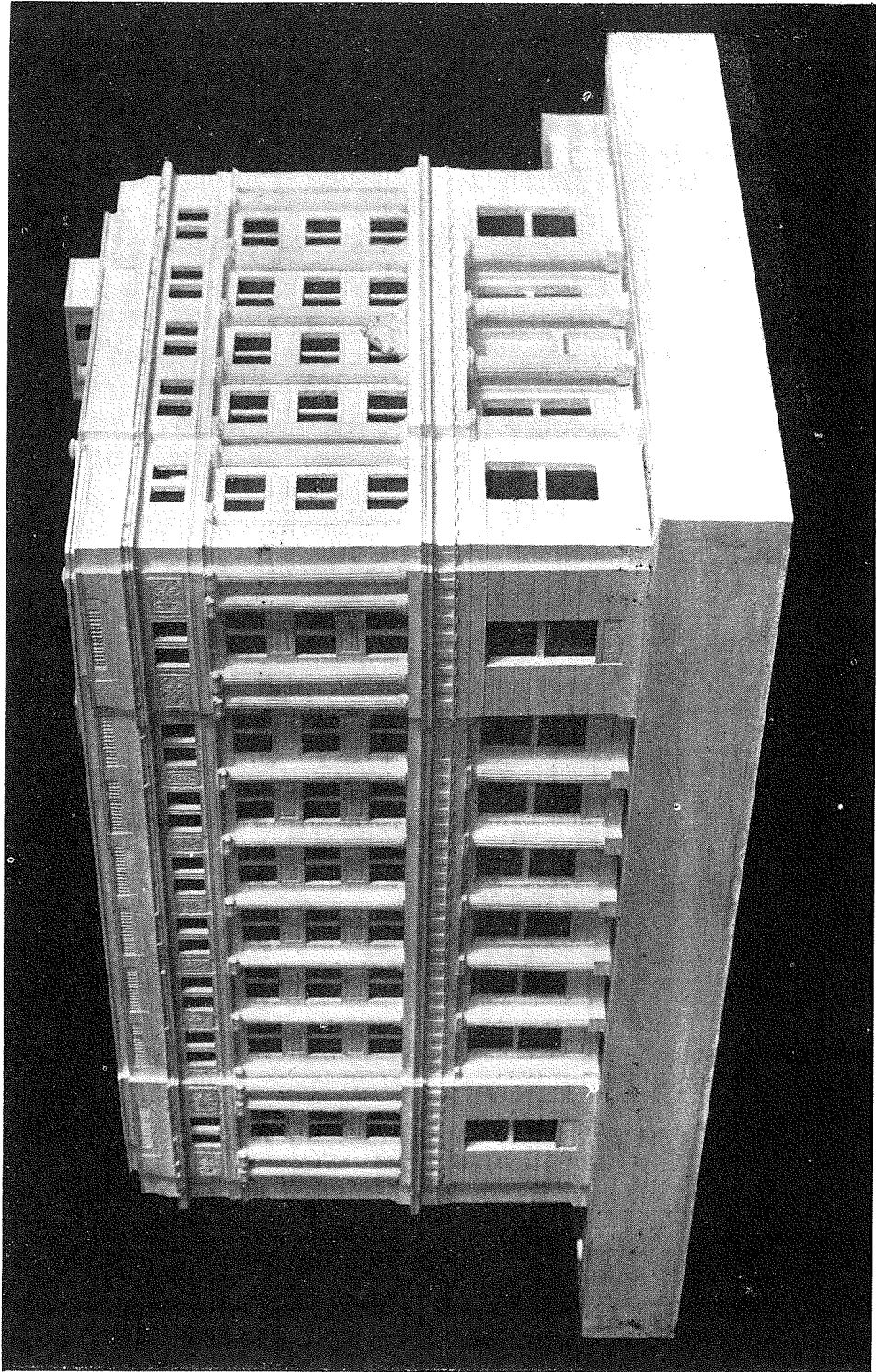
工事請負 直營

工事期間 起工大正九年十月

竣功昭和二年五月

(以上昭和二年一月)

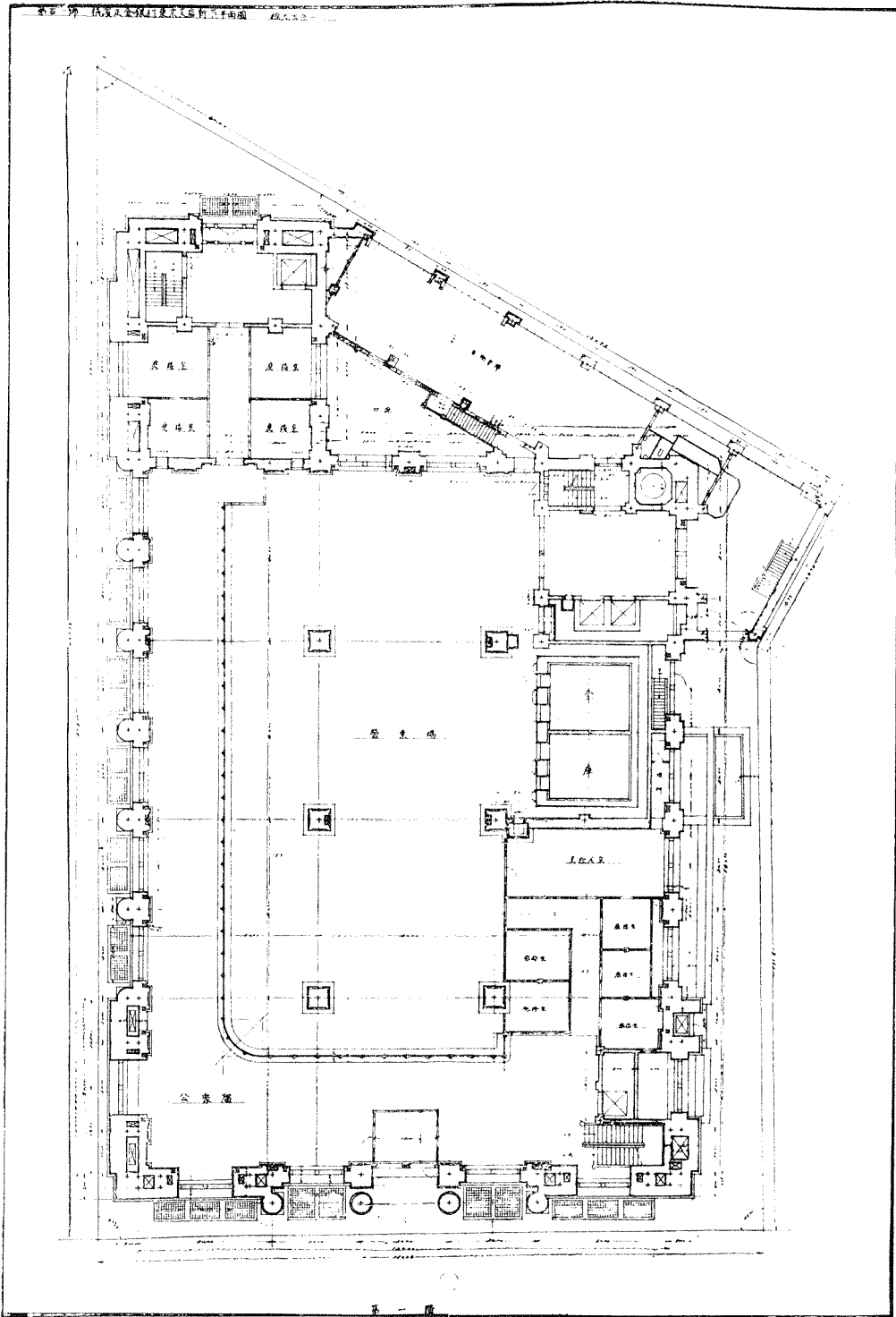
New Yokohama Specie Bank Building Now Under Construction.



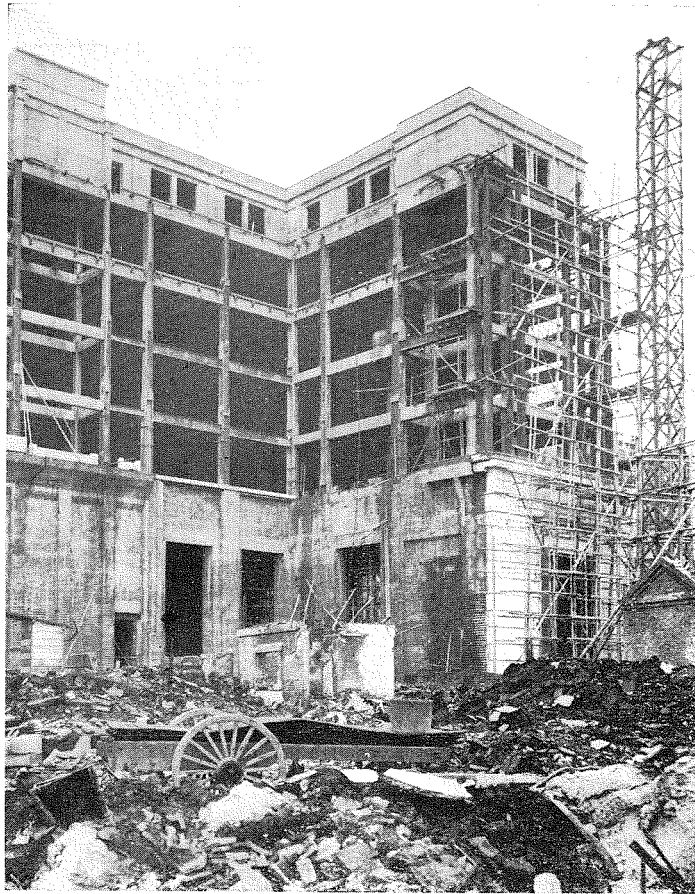
(2) 正金銀行新築模型

(2) Model of Yokohama Specie Bank.

First Floor Plan.



正金銀行新築第一階平面圖



(4) 工事中、大正十二年九月一日の大震災に遇ひたる後の状況
(4) View of New Yokohama Specie Bank Building under Construction Just after the Great Earthquake, Sept. 1, 1923.

横濱正金銀行は創業以來本店を横濱市に有するが、明治時代の對外金融狀況は今や國際的に大變化を來してをるので早晩本店を東京に移すに至らねばならぬ。此等の點で目下竣工に近づきつゝある横濱正金銀行東京支店は最初の設計を幾分變更された。

設計は銀行建築として最も近代的な要素に満ちてをるが、特に事務室の廣い事、天井の高い事などは能率的なものである。

基礎地盤は杭打を要しない程の良好なもので、東京市内としては恐らく第一等の堅固な地盤である。其故根堀は地下20尺乃至30尺にして砂交りの硬い粘土層で試験の結果は毎平方尺に1萬2千ポンド即ち約5噸の耐壓力

がある。尙ほ基礎及び鐵骨の設計は樺島工學士の手になつたものである。

此の根堀に直に第一地階、第二地階とが設けられ、其上に地上六階の鐵骨、鐵筋コンクリートビルディングが出来てをる、地上の高さは建築條令施行前であつたので110尺に及んでをる。

本建築工事は地上43尺までのコンクリートを打上つた時、大正十二年九月一日大震災に遇つたものである。(寫眞参照)

設計用圖面及び建物内容の詳細寫眞は目下製版中であるから五月の竣工を待つて詳報します。

尙ほ工事概要は前述の通りである。